

第3学年 音楽科学習指導案

活動日 平成14年2月16日
 授業者 安藤 智宏
 活動場所 音楽室(校舎4階東)

1. 題材名「ひびきをかんじながら歌おう(雪のおどり)」(全14時間)

2. 題材について

「ひびきをかんじながら歌おう」では、部分二部合唱を中心に、響きを感じ取りながら表現する活動に重点を置いて行う。そのため、歌詞やイメージを意識し、美しい歌声で伸び伸びと歌う活動の中で、違う旋律が同時に音を出すことで響きを大切に歌おうとする意欲や能力を育てたい。

児童はこれまでに、「仲間と共に歌う楽しみ方」「思いを込めて歌う工夫」「イメージにあった音探しやリズムづくり」を学習してきた。その際、こうなりたいという児童の思いを明確にし、録音していた歌を聴いて思いを達成しているか立場を明確にする中で意見交流をして、思いに近づくためにはどうすればよいか工夫し合い、題材を仕上げた。しかし、合唱になると、音程が正しくとれないことに不安を感じ、音を出すことに抵抗を感じている児童がいる。

そこで、「自信をもって正しい音程で歌えるようにするための場」「ほかの旋律の響きを感じながら歌う場」など、自分の課題を克服するにふさわしい場を自己選択させ、意欲的に課題解決に取り組めるようにさせたい。

3. 願う子どもの姿

歌詞の意味や、イメージにあった歌声で歌うとともに、互いの歌を聴きながら、旋律やリズムを表現できる。また、声の重なりを感じ取りながら、聞いたり表現したりすることができるようにする。

4. 研究との関わり

研究内容 に関わって(基礎・基本を確立するための、情報教育カリキュラムにのっとった単元指導計画の在り方)
 歌詞の意味や、イメージを意識して歌うために、プロジェクタで映し出された画像を見ながら歌える資料を用意し児童の意欲を高め、課題解決の手助けとする。

研究内容 に関わって(基礎・基本の力をつける学習活動の在り方)
 音程を正確にとるための場や、お互いの歌声や歌声と伴奏との響きを感じながら歌う場を設定し、それぞれの児童にあった課題解決の場を設定する。

研究内容 に関わって(基礎・基本の定着を図る自己評価の在り方)
 壁に向かって歌ったり、録音した歌声を聞いたりして、目指す歌声になっているか振り返られるようにする。また、音楽ノートを書くことで、克服した課題や、まだ課題となっていることを明確にし、次の学習につながるようにする。

5. 指導計画

| | | ね ら い | 主な学習内容 | 自ら学ぶ姿の育成 |
|-------------|--------------|--|--|---|
| 第 一 次 | 1 4 | ・お互いの音や声を聞きながら、旋律やリズムを表現することに慣れる 「あわてん坊の歌」 「バードウォッチング」 | ・旋律を歌詞唱したり階名唱したりする ・曲の感じを捉えて歌う。 ・互いの響きを聞きながら、旋律を重ねて歌う。 ・リズム伴奏を工夫し、歌と合わせる。 | 様々な楽器を用意し、リズムうちに意欲的に取り組むことができる |
| 第 二 次 | 5 9 | ・音や声の響き合いを感じ取って聴いたり表現を工夫したりする。 「二人でおどりましょう」 「パフ」 | ・旋律を歌詞唱したり階名唱したりする ・楽器ごとのパートを練習する。 ・リズム伴奏を加えて練習する。 ・リコーダーや鍵盤楽器で旋律を重ねて演奏する。 ・場面を思い浮かべながら聴く。 | 自分たちの合唱を録音し、今後の課題づくりや、達成感を味わうことができる。 |
| 第 三 次 | 10 14 | ・声や楽器の音を響かせて表現したり、響きを聴き合ったりする。 「パフ」 「雪のおどり」 | ・旋律を歌詞唱したり階名唱したりして二部合唱ができるようにする。 ・重なり合う音の響きを感じ取って表現の工夫をする。 ・楽器の組み合わせを工夫して演奏する。 ・合奏や合唱、「ふしあそび」を通してよりよい表現を工夫する。 | 写真資料を用意し、イメージを歌声で表現することができる。 ・自分たちの合唱を録音し、今後の課題づくりや、達成感を味わうことができる。 |

6. 本時の目標 (1 2 / 1 4)

体験や資料から、雪が降り積もっている様子を思い浮かべ、そのイメージを伝えるために、柔らかい声で歌うことに気付き、お互いの響きを感じ取りながら二部合唱ができる。

7. 本時の評価規準

| | |
|------|---|
| 表現技能 | 雪が降り積もっていく様子を表現するための歌い方を工夫することができる。二声の響きを感じ取りながら歌うことができる。 |
|------|---|

8. 本時の展開

| 段階 | 学 習 活 動 | 研 究 に 関 わ っ て 資 料 評 価 支 援 |
|------|---|--|
| つかむ | <p>1. 発声練習をする。</p> <p>2. 課題が分かる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>お互いの声の響きを感じながら歌おう。</p> </div> | 雪景色の写真資料 |
| ふかめる | <p>3. 集団練習をする。 全員で主旋律を歌う。 全員で副旋律を歌う。 クラスの半分ずつに分かれて歌う。 グループ内で半分ずつに分かれて歌う。</p> <p>4. 個人練習をする。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 10px;"> <p>s p 主旋律 s p 副旋律</p> </div> <div> <p>音程を確実にとるための練習の場：音程をとりたい旋律が流れる，S Pの前で歌い，音程を確実にとるための練習をする。</p> <p>ほかの旋律につられずに歌えるようにする場：S Pから離れて歌い，主旋律も副旋律も聴きながら練習をする。</p> <p>ペアづくりの場：主旋律と副旋律の児童でペアを作り，響きを感じながら歌えるように練習する。</p> </div> </div> | <p>課題の達成具合によって，練習場所を移動することができるか。</p> <p>どの場所で練習すればよいか，悩んでいる児童に練習すべき場所を助言する。</p> <p>響きを感じ取りながら歌うための練習ができていますか。仲間の声や，伴奏の音を聞くように助言する。</p> |
| まとめる | <p>5. 発表会をする。 個人練習をする中で，できあがったペアで発表をする。 全員で合唱をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>主旋律と副旋律の声が，重なってきれいな合唱ができた。</p> </div> | <p>響きを感じ取りながら，雪景色にあった歌声で歌うことができたか。</p> <p>仲間の声や，伴奏の音を聞くように助言する。</p> |